

平成26年度 第3回 清瀬市史編さん委員会
議事要旨

日 時：平成27年3月13日（金）

午前10時～11時15分

場 所：清瀬市健康センター 第1会議室

出席委員：根岸茂夫、栗山究、浅倉直美、黒川徳男、谷口康浩、齊藤隆雄、齊藤靖夫、
坂間和英、岡田耕輔、小西一午、中澤弘行（11名）

欠席委員：黒田一美、田村均（2名）

事務局：企画部長、市史編さん室長、市史係2名（4名）

《次 第》

1. 開 会
2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）について
3. その他
4. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成26年度 第3回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）【資料1】
3. 清瀬市で所有する自治体史【資料2】

《審議経過》

1. 開 会

委員長 これより、第3回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

議事に入る前に、事務局より、資料および進め方について説明があります。

事務局 （配布資料および進め方について説明）

2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）について

委員長 それでは議事に入ります。「清瀬市史編さんに係る基本方針（案）」【資料1】について、事務局よりご説明願います。

事務局 前回委員会時点では保留となっていた刊行計画について、2月24日に専門部会長会を開いて調整し、これをもとに最終案をまとめました。（【資料1】に基づき、最終案を説明）

委員長 事務局の説明をうけて、ご意見ください。

前回と異なる点について再確認ですが、市史の構成について、資料編の「考古」と「古代・中世」を分離しました。これは専門部会間の調整によるものです。

委 員 現在の「清瀬市史」に入っていて、今回入らないもの、また、前回なかったが今回入れるもの

はあるのか、確認しておきたいと思います。

委員長 「民俗」と「自然」について、通史の中でどうするか具体的には未定です。この2つの分野を全く排除するわけではありませんが、資料編としては刊行計画に入れていません。

委員 民俗について、市史でまとめないならば、どこかで受け皿を考えないと、時代の経過で失われてしまうのではないですか。

委員 現代について、民俗的な分野も積極的に取り入れながらやりたいと考えています。戦争体験や、失われる民俗についても、今の人の記憶で反映したいです。

委員 民俗については、郷土博物館で別に作成する予定があり、その中でとりあげることになるかと認識しています。

委員 自然をどう扱うかについて、資料編は刊行せず、通史の中で、ということですが、清瀬には誇るべき自然があるので、ぜひまとめたいと思います。資料編で出さないと、通史で扱うには分量的にたいへんです。5年間かけられるなら、絶好の機会です。一例として、八王子市はこのほど自然編を立派な一冊にまとめていますが、八王子と同じとまでいかないまでも、厚い対応を望みたいところです。

委員 自然について、分量的に多くスペースをとってしまうということならば、民俗同様、市史とは別に考えてはどうですか。予算の問題もあるでしょうが、民俗を自然と一緒にするなど、博物館で考えてはどうでしょうか。

委員 予算的には、市史と一緒にしたほうが現実的と思いますが、専門の先生方のことなど考慮すると、別になるでしょうか。

副市長 市としても、市史とは別、ということで考えたいです。

委員 考古において、現代の自然ではありませんが、また、市内だけで語るのは難しいですが、原始・古代の気候変動など、生活舞台がどうあったかについては、遺物とは別に調査しなくてはならないと考えています。環境史は資料編に入れ、通史でも記述したいと考えます。

委員 個人的に庚申塔を調べ、地藏さまを調べてまとめています。学問的な調査ではないですが、そうした個人の研究をしている人は多くいます。これらをつなぐことで、できることはないでしょうか。系統だっていないものも、つなげば何かになるのではないのでしょうか。

委員 昨年、秋津北口のキッコーマス跡で発掘が行われていました。これらも市史に反映されるのですか？

委員 市内で発掘されたものは、できるだけ反映したいと考えています。発掘調査報告書は、遺跡ごとの事業報告になっていますが、これを時代別に整理して編さんする必要があります。親しみやすい表現で、できるだけ網羅的にまとめたいと考えています。

委員 遺跡の近くに住んでいても、よくわからないでいるので、こうしたことが反映されると親しみかわきます。

委員 時代別の専門部会の活動状況について知りたいのですが。

委員長 部会長間で構想、刊行予定などを検討するにとどまっておき、具体的な活動はまだです。4月以降、専門調査員などを決定しながら各部会が動いていくこととなります。

事務局 部会長会はこれまで2回開催し、刊行計画の調整を行いました。来年度以降の動きや実績については、この委員会で報告していくこととなります。

- 委員 清瀬の産業と言えば農業ですが、戦前の農業を知る人も90歳以上で、わずかしかいなくなりました。聞き取りをするのに残された時間は少ないです。思い出し、思い出し語る話を掘り起こさないといけないのです。農業の変化は大きかったので、どこかでまとめなくてはならないと思います。
- 委員 同意します。資料的にも、和紙にくずし字でかいてあるものは大切にされますが、戦時のガリ版刷りなどは、粗悪紙でもあり、歴史的な価値を認められないまま真っ先に捨てられがちです。「昭和の資料」の保存を考えるうえでも、今この時期にやることは価値があります。
- 委員 聞き取りは、なるべく早く着手してほしいです。
- 委員 話者の紹介にぜひ協力してください。
- 委員 94歳の人で、満州に3年、沖縄に1年いて、軍用艦、駆逐艦の攻撃にあいながら助かった人がいます。そういう人の話は、その人でないと語れないものです。高齢者の話は、今でなくては聞けません。見てきた歴史の価値は大きいにもかかわらず、それを書き残すために残された時間は多くありません。
- 委員 地域の歴史を構築することが大切です。地域の若い人たちにわかるものになりたいです。清瀬を医療の街にした人、俳句の石田波郷など、いろいろな切り口があると思います。方言もとりあげたいです。普及啓発のための版が大切なものになると思います。
- 委員長 住んだ人物をだいにしたい、方言も大切にしたいということですね。普及啓発版についてのご意見ですが、普及啓発版については、市史のダイジェスト版にするのか、あるいは他のものかについては、まだ明確ではありません。
- 委員 通史が出る前の段階で概略を示すことはだいじなことだと考えます。
- 委員 基本方針案では、普及啓発版は附帯事業に位置づけられています。付帯事業であれば、市民の関心と呼ぶものに限定できますが、市史の基本構成のひとつと考えるのであれば、調査研究に基づくダイジェスト版ということになると思います。どう考えるか検討が必要でしょう。
- 委員長 普及啓発版と呼んでいます、呼び方も「普及啓発版（仮称）」としておいた方がよいのでしょうか。ダイジェスト版と決まったわけではありませんが、位置づけとしては附帯事業というよりも、基本方針あるいは刊行計画の中に入れたほうがよいと思います。ただ、どんな形であれ、最終的にダイジェスト版をつくることは必要だと思います。
- 委員 刊行計画のなかで、平成32年に普及啓発版が出されることになっています。
- 副市長 市としては、市制50周年にあたる平成32年に、何か記念になるものを出してほしいという思いがあります。内容については検討していただきたいと思います。
- 事務局 それでは、普及啓発版については、（仮称）とし、現在、基本方針案の「2. 市史の構成」と、「7. 附帯事業」の両方に掲げられているところ、「2. 市史の構成」における位置づけに絞り、内容については今後検討、といたします。
- 委員 附帯事業の2つ目に講演会等の実施とありますが、さきほどの話にもあったように、昔を語れる人に集まってもらい、先生方に聞きとってもらうような機会を早めに設けてはどうでしょうか。
- 委員 聞き取りや座談会の成果の反映は、市史研究に記事のひとつとして載せるパターンが他市には多いです。早く成果を発表したい場合、年1冊刊行予定の市史研究がよいと考えます。資料編

は文字資料を載せ、通史は評価が確定したものを載せる。聞き取り史料などの個人的な体験や歴史評価を含むさまざまな話は、市史研究に掲載するのがそぐわしいと考えます。

委員 私は、「また聞き」を信用しません。ただ、当事者の話でも、一人の話だけでは実態がわからないものです。たとえば4月2日の清瀬の空襲の話も、ルートについて異論があります。ひとりの話だけでなく、複数聞くことから、きちんとしたことがわかるのではないのでしょうか。

委員 複数の人から同時に聞ける場もよいかもしれません。

委員 3月10日の東京大空襲のことも、ここからも、もやがかかって見え、嫌なおいがしたという話を聞いたことがあります。ただ、当時の話ができる人はもはや少なく、複数の人から話を聞いて聞き取り内容を確認するのは、条件的に厳しくなっています。

委員 聞き取った内容は、市史研究で公にすることで他の人の目を通すことになります。議論を経て確実になっていくと思います。

委員 90歳以上の人で、清瀬で生まれ育った人は市内に10人いないのではないのでしょうか。

委員 高齢者はいても、戦時中は清瀬にいなかったり、外から来た人だったりします。

委員 聞き取りには、座談会が有効なことで、個人の聞き取りが有効なことが、それぞれあると思います。個人の聞き取りであれば、耳が遠くなった高齢者に話しかけるにも好都合で、大がかりな調整や設定をせずとも何度も行えるという利点があります。それぞれの良さを活かして早めに取りかかることが大切です。

委員 聞き取った内容の検証について、例えば衛星センターは戦時中海軍の施設でしたが、関連することについて防衛省の資料等と照らし合わせる、といったことは可能ですか。

委員 可能です。他所の資料と照合することで聞き取り内容を検証することができます。聞き取りは、基本的に誤りや偏見も含まれているという大前提で掲載するものと認識しています。

委員長 いろいろな意見が出ましたが、基本方針案については、おおむね原案通りでよいのでしょうか。

委員 了承。

委員長 それでは、先の訂正を入れて決定いたします。
その他にありますか。

3. その他

- 事務局 1) 【資料2】清瀬市で所有する自治体史についての説明
2) 次回委員会日程についての調整(5月21日(木)午前10時～)

4. 閉会

委員長 それでは、これで第3回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

清瀬市史編さんに係る基本方針（案）

1. 市史編さんの目的

この清瀬市史編さん事業は、平成 32 年の市制施行 50 周年を視野に入れ取り組むものであり、昭和 48 年に刊行された『清瀬市史』の内容的な見直し及び刊行以降の本市の歴史を明らかにしていくことを通して、市民の皆さんが、地域に対する理解、愛着を深め、地域への誇りをより一層育んでいけるよう目指すものである。

2. 市史編さん基本方針

- (1) 既刊の『清瀬市史』は、昭和 48 年に刊行されて以来、40 年もの年月が経過していることから、その内容的見直しを行うとともに、最新の学問的成果を盛り込むものとする。また、執筆にあたっては、歴史学研究の専門家を中心に行うこととする。
- (2) 既刊の『清瀬市史』は、資史料も織り交ぜた通史編 1 冊で構成されていることから、これを改め、通史編と資料編を分離し、より解りやすい構成とする。
- (3) 既刊の『清瀬市史』編さんの過程で活用した資史料、その後の経過の中で収集された資史料や調査研究の成果等を有効に活用するとともに、潜在的な資史料の掘り起こしを積極的に行う。
- (4) 『清瀬市史』への関心を高め、市史編さん事業への取り組みを PR する目的で、普及啓発版の刊行を行う。
- (5) 市史編さんの過程における市民参画を促す観点から、多くの市民の皆さんからの資史料提供を求め、活用を図るとともに、市民活動団体等が保有する資史料についても有効に活用を図る。
- (6) 収集した資史料等については、散逸の防止に向け、適正な整理・保存の方法を検討するとともに、広く市民に公開し、まちづくり、生涯学習や学校教育等での活用に努める。
- (7) 写真や図等を多く取り入れるとともに、平易な文章で記載するなど、広く市民に親しまれる内容にする。

3. 市史の構成

- | | |
|----------------------|---------|
| (1) 通史編（本編） | 1 冊 |
| (2) 資料編 | 5 冊 |
| 🚩 考古、古代・中世、近世、近代、現代 | |
| (3) 普及啓発版 | 1 冊 |
| (4) 市史研究（仮称） | 10 冊 |
| 🚩 平成 27 年度から平成 36 年度 | 各年度 1 冊 |

7. 附帯事業

- (1) 市史編さん事業の普及を図り、市民の市史への関心を高めるため、市制施行 50 周年を目途に普及啓発版を刊行する。
- (2) 地域の歴史・文化の学びを通じて、清瀬への誇りと愛着を育む観点から、市史に関連した講演会・講座等を実施する。
- (3) 市史編さん室専用ブログ『市史で候』や市 Facebook を有効に活用し、地域に伝わる祭りや、結核にまつわる尊い歴史を積極的に紹介するなど、地域の歴史への認識を深めていくような取り組みの継続的展開を図る。

平成 27 年 3 月 13 日

【資料 2】

清瀬市で所有する自治体史

所蔵場所「デジタル」は各自治体HPより閲覧可能

自治体	書籍名	刊行年	所蔵場所
群馬県玉村町	描かれた民俗	2012 年	市史編さん室
群馬県玉村町	五料の水神祭	2014 年	市史編さん室
埼玉県朝霞市	朝霞市史(通史編・民俗編)	1989 年・1995 年	市史編さん室
埼玉県朝霞市	朝霞市市普及版 あさかの歴史	1997 年	市史編さん室
埼玉県所沢市	所沢市史(全 15 巻)	1979～2006 年	市史編さん室
埼玉県新座市	新座市史(全 5 巻)	1984～1987 年	市史編さん室
埼玉県飯能市	名栗の民俗 下	2008 年	市史編さん室
埼玉県三芳町	三芳町史(通史・資料編Ⅱ・Ⅲ・民俗編)	1986～1992 年	市史編さん室
東京都小金井市	写真でみるわたしたちのまち小金井	1988 年	市史編さん室
東京都小金井市	小金井 この百年 町村制施行 100 年記念誌	1990 年	市史編さん室
東京都小金井市	写真でたどる昭和の小金井	1999 年	市史編さん室
東京都小平市	小平市史(7 巻)	2012～2014 年	市史編さん室
東京都小平市	小平市史概要版 小平の歴史	2015 年	市史編さん室
東京都調布市	図説 調布の歴史	2000 年	市史編さん室
東京都調布市	調布市史年表	2009 年	市史編さん室
東京都東久留米市	東久留米市史料	1978 年	市史編さん室
東京都東久留米市	東久留米市史	1979 年	市史編さん室
東京都東村山市	市制施行！ 東村山 13 町大集合	2014 年	市史編さん室
東京都東大和市	東大和市史資料編(全 10 巻)	1995～1999 年	市史編さん室
東京都東大和市	東大和市史	2000 年	市史編さん室
東京都日野市	日野流	2013 年	市史編さん室
東京都府中市	府中市政史	2014 年	市史編さん室
東京都町田市	増補 町田の歴史をたどる	2002 年	市史編さん室
東京都三鷹市	写真集 みたかの今昔	2000 年	市史編さん室
東京都三鷹市	写真集「続・みたかの今昔」	2010 年	市史編さん室
東京都武蔵村山市	武蔵村山市史(全 9 巻)	1999～2002 年	市史編さん室
東京都東村山市	図説東村山市史	1994 年	市史編さん室 中央図書館
東京都東村山市	東村山市史(全 11 巻)	1995～2003 年	市史編さん室 中央図書館
東京都三鷹市	三鷹市史(2 巻)	2000～2001 年	市史編さん室 中央図書館

埼玉県所沢市	所沢市史(資料編1~7)	1979~1990年	中央図書館
東京都昭島市	昭島市史	1978年	中央図書館
東京都稲城市史	稲城町史	1967年	中央図書館
東京都稲城市史	稲城市史(上下)	1991年	中央図書館
東京都小平市	小平市史(1~5)	2012~2014年	中央図書館
東京都多摩市	多摩町史	1970年	中央図書館
東京都調布市	調布市史(中)	1992年	中央図書館
東京都西東京市	田無市史(資料編・通史・民俗編)	1991~1995年	中央図書館
東京都羽村市	羽村町史	1974年	中央図書館
東京都東久留米市	東久留米市史	1978年	中央図書館
東京都東村山市	東村山市史(1~7・10・11・年表)	1996~2002年	中央図書館
東京都日野市	日野市史(通史編1~5・民俗)	1977~1994年	中央図書館
東京都日の出町	日の出町史(通史編上・文化財編)	1989~1992年	中央図書館
東京都府中市	府中市史(上下)	1968~1974年	中央図書館
東京都福生市	福生市史(上下)	1987~1993年	中央図書館
東京都町田市	町田市史(下)	1976年	中央図書館
東京都瑞穂町	瑞穂町史	1974年	中央図書館
東京都武蔵野市	武蔵野市史(新旧・資料編1~18・民俗編)	1965~2012年	中央図書館
東京都大和市	大和町史	1963年	中央図書館
東京都狛江市	狛江市史	1985年	中央図書館 博物館
秋田県五城目町	五城目町史(デジタル版が先行)	2005年	デジタル
沖縄県伊江村	伊江村史(上・下)	1980年	デジタル
東京都福生市	福生町誌	1960年	デジタル
東京都福生市	福生市史	1994年	デジタル
東京都武蔵野市	武蔵野百年史 続編(記述編・年表編)	2011年	デジタル
栃木県高根沢町	高根沢町史(通史編1)	2000年	デジタル
長崎県大村市	新編大村市史(1・2)	2013・2014年	デジタル
北海道函館市	函館市史(通説編1~4)	1980~2002年	デジタル
北海道八雲町	八雲町史	1983年	デジタル
北海道八雲町	熊石町史(途中まで)	1987年	デジタル
三重県亀山市	亀山市史(IT市史のみで紙媒体は無)	2008年~	デジタル
山梨県身延町	身延町誌	1970年	デジタル
茨城県土浦市	新治村史 図説	1986年	博物館
埼玉県川越市	川越市史(1~7・史料編1~3・民俗編・写真集・年表)	1972~1986年	博物館
埼玉県北本市	北本市史(民俗編)	1989年	博物館

埼玉県さいたま市	岩槻市史(資料編1~11・植物編)	1980~1982年	博物館
埼玉県坂戸市	坂戸市史(資料編1~8)	1983~1997年	博物館
埼玉県志木市	志木市史(通史下・資料編1~6)	1986~1989年	博物館
埼玉県所沢市	所沢市史(資料編1~8)	1979~1988年	博物館
埼玉県新座市	新座市史(1~4)	1984~1986年	博物館
埼玉県三芳町	三芳町史(通史・資料編1~2)	1986~1987年	博物館
埼玉県和光市	和光市史(上下)	1987~1988年	博物館
埼玉県鷲宮町	鷲宮町史(史料1~6)	1980~1987年	博物館
千葉県浦安市	浦安市史(まちづくり編・生活編)	1999年	博物館
千葉県千葉市	千葉市史(資料編9)	2004年	博物館
東京都秋川市	秋川市史	1983年	博物館
東京都秋川市	秋川市史 付編	1983年	博物館
東京都稲城市	稲城市史(資料編1~4)	1994~1995年	博物館
東京都青梅市	青梅市史(上下)	1995年	博物館
東京都大島町	東京都大島町史(民俗編)	1999年	博物館
東京都大田区	史誌(1~41)	1974~1995年	博物館
東京都奥多摩町	奥多摩町史(自然編・民俗編・歴史編)	1985年	博物館
東京都北区	北区史(18冊)	1992~1996年	博物館
東京都国立市	国立市史(上中下別)	1988~1992年	博物館
東京都神津島村	神津島村史	1998年	博物館
東京都小金井市	小金井市史(資料編)	2009年	博物館
東京都国分寺市	国分寺市史(上中下)	1986~1991年	博物館
東京都多摩市	多摩市史(通史1~2・資料編1~4・民俗編)	1995~1999年	博物館
東京都調布市	調布市史(上中下)	1990~1997年	博物館
東京都豊島区	豊島区史(10冊)	1975~1989年	博物館
東京都新島村	新島村史(通史編・史料編1~7)	1996~2004年	博物館
東京都西東京市	保谷市史(通史1~4・史料編1~4)	1986~1989年	博物館
東京都八王子市	八王子市史(下巻・付編)	1966~1967年	博物館
東京都東村山市	東村山市史(1~4・6・7・10・11)	1996~2002年	博物館
東京都日野市	日野市史(通史1~6・資料編・民俗・別巻)	1977~1994年	博物館
東京都日の出町	日の出町史(通史編上中下・文化財編)	1989~2006年	博物館
東京都福生市	福生市史(上下・資料編1~10)	1987~1993年	博物館
東京都武蔵野市	武蔵野市史(史料目録編1~2)	1973~1974年	博物館
東京都武蔵野市	子ども武蔵野市史	2010年	博物館
東京都利島村	利島村史	1996年	博物館
山口県下関市	下関市史(民俗編)	1992年	博物館